



神楽姫 (13)



うみ(?)



エンジェルブルー (11)



ニコちゃんII (11)



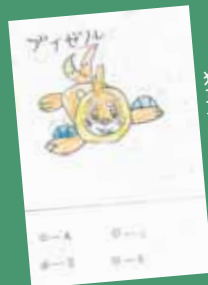
クレア (13)



福士正子 (69)



山崎竜輔(?)



狩元我生(?)



霧雨魔理沙☆ (13)

みんなのスペース



たばた ゆか ちゃん
(わかき保育園・5歳)

大きくなったらケーキ屋さんになって、モンブランのケーキをお父さんに食べさせてあげたいな。

山田よいとこ好きな町 (18)

ご存じの方も多いのですが、関谷集落に「杉の下」といわれ、山田で神官さんをなさっている佐藤家がある。聞くとところによれば、昔とてつもない杉の大木があったことからその近くのお家を「杉の下」といわれるようになったとか。しかしいつの年にか、その大杉は落雷によって失われたそうです。

こちらの裏山で「深山」といわれる山に、「深法山大観世音」と「深山大権現」が祭られている。「権現」とは読んで字のごとく「神が現れる」ということだと、この家のご主人から教わった。お祭りの時によく踊る獅子舞の頭も権現さまであると、大人たちが言っていた事が子供心に刻まれています。この山の祭日は、田の浜の荒神社と同じく6月15日です。わたしも毎年参拝に参りますが、初めての年には近くの先輩に案内していただいたの初詣でした。坂道の参道をゆっくり登っていったら、途中の道端に「オランダ船」山田湾入津の事が書き刻まれた石碑がありました。今、山田湾内の大島を「オランダ島」と呼ぶようになったいわれのもとでしょう。この山「深山」といわれるだけあって、深深とした物音少ない坂の参道をトボトボ登り行くと、静けさの中に神々しさ漂い「何様のおわしますかは知らねども、ただありがたさに頭したたる」思いがいたしました。やがて、やっと山頂の開けた場所にたどり着いたら、立派なお宮がありました。一息入れて、連れの友人と一緒に深々と首を垂れて礼拝いたしました。しかし、年老いた今は坂道は無理なので、ふもとの遥拝所でご主人にお世話をいただき参拝して、お話など伺っています。

「深法山大観世音」様は小さなお宮に納められて神社の一隅に祭られています。今年は800年祭でした。いただいたお守り札を見たら、平安時代の平城、嵯峨天皇朝の806年5月18日に関谷の山に祭られている。今年2008年だから1,242年も前のことになる。祭りが同じ6月15日である荒神社は、リクコタンというアイヌの神、綿津見神だからもっと古いのだらうけれど、それにしても古い観音様である。なんととも気の遠くなるようなことではある。しかし、それゆえに興味もまた津々で、ロマンスの深まりを夢見る思いがするではないか。さらに驚くことがある。この家の言い伝えて「この観音堂は決して開けてはならぬ」ということになっているそうだ。祭ってから1,200年以上も過ぎた今もどんな観音様か誰も拝観していないということに、驚きの余り、ただ唖然としてしまい言葉もない。なんととも神秘的な事があるものですね。一方の「深山大権現」様は、鎌倉時代、1185年以後に羽黒山から招聘したとあるから、観音様より400年後になる。参考までに、関口の「長次郎屋」佐藤家は、前に書いたように、山田に來られたのは文治元年(1185年)とされている (つづく)

ペンネーム・山田北州 (山田・87歳)



佐々木麗緒 (9)



カボチャ野郎 (1)



田畑葵唯 (1)



スマイル君(?)



ショキチ(?)



坂本陽和 (12)

うれしく思う中村さんの活躍

大分県で開催された全国障害者スポーツ大会に出場した中村明穂さんの活躍を心よりうれしく思います。入学間もない明穂ちゃんと朝の通学列車で一緒にになり、同じ地域に住んでいることを知りました。緊張と不安げな明穂ちゃんに「大丈夫よ。友だちいっぱいあって楽しい生活を送ってね」と話しながら、宮古駅に着いた日のことが思い出されます。大会で競技している姿と銀、銅メダル獲得を知り、思わず歓声を上げました。

明穂ちゃん、本当におめでとうございます。
中垣のり子 (船越・60歳)

鬼の目にも涙

10月16日午後6時、テレビのニュース番組で、大阪市のある保育園で、ある公共工事のための畑の立ち退きが強制執行という建前で無理やりに執行され、園の畑に園児たちが作付けし収穫を楽しみにしていたサツマイモなど収穫間近の作物を根こそぎ掘り返されるという報道を見て、腹立たしさを覚えました。

このような非情なことは山田町行政では行われなことを信じておりますが、園長や保護者の、収穫を楽しみに園児たちが一生懸命丹精込めて育て、小さいうちから一生懸命物事に力を合わせ努力する根性と優しい心を育てることを踏みにじる行政の行為は許しがたいと感じた。

大阪の橋下知事は公共の利益が優先のようなコメントをしておったが、たとえ公共の利益とはいえ、たった2週間待ってくれと保護者たちが畑にはいつくばって必死に懇願しても聞かずに撤去作業が強制され、周囲で園児たちが泣きながら見守る姿は同情するものがあった。

お上(行政)と泣く子には勝てないという昔からのことわざもあるが、鬼の目にも涙ということわざもある。強制執行はどちらでしょうか、情けは無いものかと思う。

西館 隆 (船越・?歳)

園児の運動会

懸念された超大型台風13号が船越保育園恒例の運動会を案じたかのように三陸沖東方へ迂回していった。9月21日催されたその日は、たまに暑からず寒からずの好天に恵まれ、先生方、保護者ともども胸をなで下ろしたに違いない。

かつて私も孫をこの保育園に送迎したころを振り返ると、いろんなイベントの都度、随分天候を気にしたものだ。その2人の孫もやっと成長を気にしたものだ。その2人の孫もやっと成長を長し、中学、高校生となり、時の流れの速さを実感している。最近孫がよく言ったりする。「俺たちはもう小学校も終えたい保育園には遠慮したら…」と。でもなぜかイベントがあると足が向く。振り返ると10数年もお世話になった船越保育園への未練が今も心のどこかに潜んでいるのかもしれない。

年とともに運動会の種目も趣向を凝らし、北京五輪にあやかってオリンピックをイメージした種目にとても好感が持てたし、たくましい園児のスポーツを目の当たりにし、足取りも軽く若返り気分が帰路に就いた。

齋藤忠雄 (船越・83歳)

やまだ文芸広場

- ひと声も出さずにもずが荒地飛ぶエサを探して降りてはあがる 菊地孝進 (船越・86)
- 孫たちのしやぎまわるは秋彼岸しぐさかわいいや合わせるその手 堀合秀子 (長崎・?)
- 富士の見える海も見えけり旅あれば夫婦楽しく健康感謝 大川ヒメ子 (大沢・64)
- 満月を美しく見る中秋の遠く離れた孫の声聞く 大町ティ子 (大沢・?)
- 役所から届くあて名は様つきで時の流れに殿は消えゆく 菊地サカエ (織笠・73)
- 総選挙あるのかないのかピラ豊富 佐藤兼男 (荒川・82)
- 「お魚のマス」 ①朝のあいさつ 「おはようございます」 ②ご飯を食べるあいさつ 「いただきます」 ③仕事に、作業に 「よろしく願います」 ④マスマス進む温暖化。 ⑤自分の命に、生きて ⑥なかなか言えない 言葉でございます。 佐藤啓子 (船越・30)
- 折にふれ語り継ぎゆくあのいくさ ペンネーム・菊地閑悟 (山田・87)

◆投稿規定 ▷住所、氏名、年齢、電話番号を明記。ペンネーム、匿名での掲載を希望する方はその旨をさらに付け加えてください▷住所、氏名が記入されていないものは掲載しません▷営利・政治的活動を目的としたものや、特定の個人・団体をひぼう・中傷するものは掲載できません▷投書を添削することがあります。 ◆あて先 〒028-1392 (住所不要) 山田町役場総務課情報管理担当へ。

【お詫びと訂正】前号の菊地サカエさんからの投書「自衛隊基地見学会に参加して」の中で「深緑に包まれた…」と表記されていたものを、誤って「新緑」と掲載しました。深くお詫びし、訂正いたします。